

各団体における取組

【埼玉県消費者団体連絡会】

○ 令和6年度の取組

- ・ 10月17日、第60回埼玉県消費者大会の食と健康分科会で「サプリメント（健康食品）で健康になるの？ ～機能性表示食品での重大事故を受けて～」をテーマに、3人の助言者の報告と意見交換しました。（助言者：（一社）Food Communication Compass 代表 森田満紀さん、医療生協さいたま薬剤師 守屋こずえさん・管理栄養士 乙幡千恵さん）参加者113人（会場92人、Zoom21人）「環境とくらし農業」分科会は「循環型社会の実現に向けて ～江戸のくらしを今に活かす～」をテーマに、助言者と実践報告、会場参加者からの報告ののち、質疑応答、意見交換しました。助言者 東洋大学名誉教授 鈴木孝弘さん、実践報告 埼玉農民運動連合会 松本慎一さん（実行委員）参加者98人（会場80人・Zoom18人）
- ・ 2025年2月20日に埼玉县委託事業 県内消費者団体地区別研修会④「オーラルフレイルと低栄養 ～お口の健康、意識していますか～」をテーマに開催、12団体45人（会場16人、Zoom29人）が参加し、学びました。
- ・ 同2月16日に、埼玉県食品衛生安全局と消費者団体の懇談会を開催し、9団体10人が参加しました。埼玉県食品衛生監視指導計画の執行状況や今年度の計画のポイント、鳥インフルエンザや豚熱について、小林製薬の紅麹を含む食品に係る健康被害事案について、事件の概要および健康被害の原因究明と関連する現行制度と見直しの内容と対応などについて懇談しました。

○ 令和7年度取組計画

- ・ 9月12日、第61回埼玉県消費者大会プレ学習会で「米不足はなぜ起きたのか ～お米の安定確保と供給を視点に考える～（仮）」を開催予定。
- ・ 10月30日、第61回埼玉県消費者大会食分科会を開催予定。
- ・ 2026年2月、埼玉県食品衛生安全局と消費者団体の懇談会開催予定。
- ・ 2025年度埼玉县委託事業 県内消費者団体地区別研修会で、食生活と健康について学習予定。

【さいたま市消費者団体連絡会】

○令和6年度の取組

地産地消月間の11月23日開催の消費生活展のクイズラリーの景品として、埼玉県のお米彩のきずな米の配布を予定しましたが、強風のため中止となったため、翌年2月に開催した消費者フォーラムで参加者に配布しました。

【埼玉県地域婦人会連合会】

○令和6年度の取組

- ・埼玉県米消費拡大推進協議会事業への協力（県産米粉を使った料理教室を開催：加須市大利根）。
- ・歯舞産の早煮昆布を使った料理教室を開催。（加須市大利根）

○令和7年度の取組計画

- ・埼玉県米消費拡大推進協議会事業への協力（学習会において県産米粉を使った米粉パンを試食し、アンケートをとる）
- ・歯舞産の早煮昆布を使った料理教室を開催。（蕨市）

【新日本婦人の会埼玉県本部】

○令和6年度の取組

- ・1990年から「産直運動」を実施。「食べて、学んで、美しく」をスローガンに34年間にわたり多様な取り組みを展開してきました。
- ・生産者との交流を大切に、田植えや稲刈り体験などをおこなっています。体験だけでなく、生産者を訪ねて直接お話を聞いたり、郷土料理を大切に作る視点を取り入れ、バスツアーも行いました。大豆トラスト運動での味噌づくりも行いました。
- ・「日本の農業と食料危機はどうなる？」—食料・農業・農村基本法見直しと新基本法制定の危うさ
「米問題を考える」「畜産業の現状と丹沢農場、新しくなった工場の様子」と題し生産者を招いての学習
2回の学習会を行い、食料自給率を上げるために私たちの出来ることを話し合いました。



○ 令和7年度活動計画

- ・ 田植えや稲刈りの農作業体験の継続した実施。
- ・ 埼玉県産米の消費拡大に関する学習会の実施。
- ・ 「産直ツアー」の実施検討。
- ・ 産直品を美味しく食べる料理グループの実施を検討。
- ・ 「食」の安全や「食料自給率の引き上げ」、SDGs、アグロエコロジー、米・自然エネルギーに関する学習会などの開催。

【公益社団法人埼玉県栄養士会】

○ 令和6年度の取組

- ・ 市民健康栄養講座（講話、骨密度測定、栄養・食生活相談）
- ・ 埼玉県米消費拡大推進協議会事業への協力
- ・ 彩の国米まつりにおいて食生活相談・骨密度測定
- ・ 介護予防における栄養講座と調理実習
- ・ 食事バランスガイドの推進（通年）
- ・ 栄養の日イベント（8月3日）栄養週間（県民の栄養に対する興味喚起を促す）
- ・ 地産地消の推進
- ・ 埼玉県牛乳普及協会 第45回牛乳・乳製品料理コンクールへの協力
- ・ 障害者施設における栄養講座と調理実施

○ 令和7年度の取組計画

- ・ 市民健康栄養講座（講話、骨密度測定、栄養・食生活相談）
- ・ 埼玉県米消費拡大推進協議会事業への協力
- ・ 彩の国米まつりにおいて食生活相談・骨密度測定
- ・ 介護予防における栄養講座と調理実習

- ・ 調理師による県民の食生活の向上に関する条例の実施
- ・ (公社) 日本調理師会主催の全国こども愛情弁当コンテストへの協力
- ・ 埼玉県鮎組合…埼玉県産野菜酵素すしの勉強会と料理教室(9月) (R8.2月)
- ・ 会員増員に向けての取り組み
- ・ 調理師試験準備講習会・模擬試験の実施

【埼玉県食生活改善推進員団体連絡協議会】

○ 令和6年度の取組

- ・ 食育月間(毎年6月)、食育の日(毎月19日)の普及啓発
- ・ 県内産の米を使った県民向けの料理教室を開催
米料理教室は、28市町30会場(731名)で実施
- ・ 地域の行事食、伝統食の継承
- ・ 地産地消の啓発としての県の米をはじめ農産物を利用したイベントでの試食づくり、宣伝活動
- ・ 地場産の食材を使ったコバトン健康メニュー(塩分3g未満、野菜120g以上、カロリー500~700カロリーまで)の新メニュー開発と既存メニューの県民への普及(県内20市町で実施)、(県のホームページに随時掲載し、クックパッドにも掲載)
- ・ 防災食のレシピ集の作成(令和7年3月に発行)

○ 令和7年度の取組計画

- ・ 食育月間(毎年6月)、食育の日(毎月19日)の普及啓発
- ・ 県内産の米を使った県民向けの料理教室を開催
米料理教室は、30市町で実施予定
- ・ 地域の行事食、伝統食の継承
- ・ 地産地消の啓発として、県産米をはじめとした農産物を利用したイベントでの試食づくり、宣伝活動
- ・ 地場産の食材を使った埼玉県コバトン健康メニュー(塩分3g未満、野菜120g以上、カロリー500~700カロリーまで)の新メニュー開発と既存メニューの県民への普及(県内20市町で実施)(県のホームページに随時掲載、クックパッドにも掲載)

【埼玉県農業協同組合中央会】

○ 令和6年度の取組

- ・ 県産農産物を使用した「健康で風土に合った食生活研修会」の実施（6月4日、19日）
- ・ 野菜の日にちなんで、8月31日付埼玉新聞に特集記事及び広告を掲載。
- ・ 埼玉スタジアムにおいて、県産農畜産物のPRを行った。（6月1日、10月5日）
- ・ 11月16～17日、県内農林水産業を広くPRするため、彩の国食と農林業の祭典ドリームフェスタを開催した。
- ・ 県産農畜産物のPRのため、11月28日開催の「埼玉県地産地消ブランド農産物を味わう集い」に協賛した。
- ・ 9月から1月にかけて、県産米新米キャンペーンを開催し、県産新米購入者を対象に抽選で景品が当たる企画や、浦和レッズ選手やNACK5を活用して、県産米のPRを行った。

以下、周年

- ・ JAグループさいたま「地産地消・みんなの良い食プロジェクト」運動
「よい食」とは何かを、生産者とJAグループ、消費者のみんなと一緒に考えて、行動していく運動。栄養バランスや適性摂取量などの観点から食への関心を高め、調理や食材への興味を喚起。
- ・ 生産履歴記帳運動
各種研修会を開催することによる、生産履歴記帳運動の充実強化。
- ・ JA農産物直売所PR
地産地消の実践によるJA・地域農業の理解促進、農産物の安全・安心確保のためのJA農産物直売所店長研修会の開催。
- ・ 県産農産物のメディア等を通じたPR
 - ① JAグループさいたまホームページ「みらの」にて各種情報の発信。（周年）
 - ② 消費者向け情報誌「みらの」発行。（7月、11月、3月発行）

○ 令和7年度の取組計画

- ・ 県産農産物を使用した生活事業担当者向け料理講習会の実施。
- ・ 野菜の日にちなんで、8月31日付埼玉新聞に特集記事及び広告を掲載。
- ・ 彩の国食と農林業の祭典「2025 彩の国食と農林業ドリームフェスタ」の開催。
- ・ 埼玉県地産地消ブランド農産物を味わう集いへの協賛。
- ・ 県産新米の購入者に対し、抽選でプレゼントを実施するとともに、浦和レッズ選手を起用した、県産米のPRの実施。(新米キャンペーン)
- ・ 浦和レッズと連携した県産農畜産物PRの実施。
- ・ 三遊亭鬼丸氏を起用した県産農畜産物のPR活動
- ・ 「地産地消」・「国消国産」の実践に伴う、全世代型食農教育の実施

以下 周年

- ・ JAグループさいたま「地産地消・みんなの良い食プロジェクト」運動の実施
- ・ 生産履歴記帳運動の実施
- ・ JA農産物直売所PR活動の実施
- ・ 県産農産物のメディア・SNS等を活用したPR活動の実施
- ・ 各種PR資材の作成

【全国農業協同組合連合会埼玉県本部】

○ 令和6年度の取組

- ・ F R E i S A i d 版生産履歴管理システムの普及促進
- ・ 各種キャンペーン協議会等と連携したホームページ、テレビ、SNS、ふかや花園プレミアムアウトレット前デジタルビジョン、料理・食材雑誌にて農畜産物の情報提供
調味料メーカーとのメニュー共同開発、販促資材等の作成およびPR活動
- ・ 学校給食会への県産農畜産物の安定供給と連携強化
- ・ JA農産物直売所の運営改善支援
- ・ 埼玉県産春野菜大田市場PRイベント（4月19日）



大田市場 P R イベント

- ・ スーパー・量販店への販促強化及び県内農産物の地域内流通並びに彩のきずな、春夏野菜、秋冬野菜、彩の国黒豚試食販売等
- ・ 水稲新品種えみほころの量販店・J A直売所における数量限定販売
- ・ J Aグループさいたま農畜産物オンライン商談会 2024 にて県産農畜産物の P R 及び販売促進（10月1日～11月29日までオンライン開催）
- ・ 2024 彩の国食と農林業の祭典（ドリームフェスタ）にて県産農畜産物販売促進
（11月16日・17日 熊谷市 熊谷スポーツ文化公園）
- ・ 埼玉の切花・枝物展示会（11月18日～11月22日）大田市場 花き棟
- ・ 「埼玉県産地産地消ブランド農産物を味わう集い」にて県産農畜産物 P R（11月28日 さいたま市 パレスホテル大宮）
- ・ 埼玉県農商工連携フェアにて県産農畜産物の P R 及び販売促進
（令和7年2月5日 さいたまスーパーアリーナ）
- ・ J Aグループ国産農畜産物商談会にて県産農畜産物の P R 及び販売促進
（令和7年1月30日～31日：東京都立産業貿易センター浜松町館）
- ・ 埼玉県鉢物展示商談会にて県産花卉の P R（令和7年3月6日）

○ 令和7年度取組計画

- ・ F R E i S A i d 版生産履歴管理システムの普及促進
- ・ 各種キャンペーン協議会等と連携したホームページ、テレビ、SNS、ふかや花園プレミアムアウトレット前デジタルビジョン、料理・食材雑誌にて農畜産物の情報提供
調味料メーカーとのメニュー共同開発、販促資材等の作成および P R 活動
- ・ 学校給食会への県産農畜産物の安定供給と連携強化
- ・ J A 農産物直売所の運営改善支援

- ・ 埼玉県産春野菜大田市場 P R イベント（4月22日）



大田市場 P R イベント

- ・ スーパー・量販店への販促強化及び県内農産物の地域内流通並びに春夏野菜、秋冬野菜、彩の国黒豚試食販売等
- ・ 埼玉県と連携した水稻新品種えみほころ及び彩のきずな、彩のかがやきのプロモーション活動展開（量販店等における令和7年産の数量限定販売など）による県産米の販売促進
- ・ 2025 彩の国食と農林業の祭典（ドリームフェスタ）にて 県産農畜産物販売促進(11月15日・16日 熊谷市 熊谷スポーツ文化公園)
- ・ 「埼玉県地産地消ブランド農産物を味わう集い」にて県産農畜産物 P R (11月11日 さいたま市 ホテルブリランテ武蔵野)
- ・ 埼玉県農商工連携フェアにて県産農畜産物の P R 及び販売促進 (12月2日 さいたまスーパーアリーナ)
- ・ 埼玉県鉢物展示商談会にて県産花卉の P R (令和8年3月上旬)

【埼玉県森林組合連合会】

○ 令和6年度の取組

- ・ 県産木材認証センターの運営（通年）
- ・ 合法木材製品の利用促進
- ・ 第75回全国植樹祭のお野立所建設工事や御手播箱等製作への原木供給及び式典会場で使用された木材製品（ベンチ1,050基、プランターカバー1,200個）と三旗掲揚ポール（3本）の製作



お野立所

○ 令和7年度の取組計画

- ・ 彩の食と農林業の祭典の開催及び出展
（「2025 彩の国食と農林業ドリームフェスタ」 11月）
- ・ 県産木材のPR活動（通年 県内全域）
- ・ 県産木材認証センターの運営（通年）
- ・ 合法木材製品の利用促進
- ・ 木育推進活動

【埼玉県食品工業協会】

○令和6年度の取組

県産農産物を利用した加工食品の開発・販路拡大・広報活動

- ・ 埼玉県産農産物の使用推進
醤油の原料の小麦はほぼ埼玉県産
- ・ 県事業を活用し、新商品の開発のための情報交換会開催
- ・ 各酒造会社の使用する米、さけ武蔵、彩のかがやき等
県産酒造用好適米 山田錦、五百万石の生産（加須市）
加須市特産日本酒（加須の舞スパークリング）
平成国際大学女子野球部とコラボした日本酒 純米大吟醸酒「明軽」
釜屋製造
- 上里町の梨を利用した日本酒リキュールを発売
- ・ Made in Saitama 優良加工食品大賞 2025 への応募
最終選考商品
優秀賞 高砂製菓(株) 小薪あげ
特別賞 (株)石川漬物 しゃくしな漬
マルツ食品 恋する梅の実
- ・ 各種フェア、イベントに出展
 - ・ 埼玉の地酒を楽しむ会開催（5/24）大宮ソニックシティ14F（天空のジパング）
 - ・ 「全国日本酒フェア」（7/5～6）池袋サンシャインシティにて埼玉の日本酒をPR
 - ・ 埼玉地酒応援団夏の陣を開催
 - ・ 埼玉酒蔵大試飲会開催 10/11 さいたまスーパーアリーナ展示ホール
 - ・ 農商工連携フェア（2/5）さいたまスーパーアリーナにて埼玉県の日本酒のPR

○令和7年度の取組計画

- ・食品工業団体各会員相互の情報交換会を開催し、新商品の提案
- ・ふるさと認証食品制度の活用、特にプレミアムの推進
- ・県産農産物を利用した加工食品の開発・販路拡大・広報活動
- ・Made in Saitama 優良加工食品大賞 2026 への応募
- ・埼玉県物産観光協会主催
埼玉県新商品 AWARD 2026 への出品
- ・県産農産物の契約栽培の推進
- ・各種フェア、イベントに積極出展
さいしんビジネスフェアへ出展 6/11 さいたまスーパーアリーナ
全国日本酒フェア（國酒フェア）への出展（県産日本酒のPR）6/14～15
（今年は 大阪関西万博により 大阪開催）
埼玉酒蔵大試飲会の実施（10/16 さいたまスーパーアリーナ展示場）
日本酒以外の各組合（漬物協同組合、醤油組合）に出展を依頼し、県産加工食品も PR
各蔵新酒まつりへの参加

【一般社団法人埼玉県青果市場連合会】

○令和6年度の取組

- ・ 会報誌への資料掲載と取組に向けたPR（随時）
- ・ 県産青果物の販売促進
県内市場が県、全農等と協働して新たな県産青果物の販路を拡大し、産地育成を図る。
- ア 「行田在来えだまめ」の県内流通（10月）
行田市及び熊谷市妻沼地区で生産される甘味が強く特有の風味をもつ「行田在来えだまめ」の契約取引（産地育成）を平成26年度から実施。
令和6年度の取引は県内主要7市場がスーパー等を通じて約2.5tを販売した。
- イ 「ピノガール」の販売流通に関する情報交換会の開催（2月）
「ピノガール」の県内流通（7月中旬～）
本県では令和4年度から栽培が始まった「ピノガール」（種が小さく種ごと食べられる小玉スイカ）を対象に、全農さいたまと県内7市場との間で情報交換会を開催した。これにより、一部の県内市場で初めて取引があった。

○ 令和7年度の取組計画

- ・ 会報誌（電子版）への資料掲載と取組に向けたPR（随時）
 - ・ 県産青果物の販売促進
- ア 行田在来えだまめについて
一定の産地拡大がみられた行田在来えだまめについては、一般取引に移行するための準備を行う。
- イ ピノガールについて
ピノガールについては、県内市場を対象とした食味会を開催するなど、契約取引へのランクアップを目指す。
- ウ 主力県産青果物における県内市場流通向上のための意見交換
- ・ 県民の台所を賄うため、県内市場は全国から毎日集荷している。
令和5年度実績で野菜は21万トン、果実は6万2千トンで、そのうち埼玉県産青果物が占める割合は野菜、果実ともに低下傾向にある。
物流問題に対処するためにも、足元にある埼玉県産青果物の県内市場取扱高の向上を目指して、市場と県、産地等で構成する部会での意見交換を進めていく。

【公益財団法人埼玉県学校給食会】

○令和6年度の取組

- ・原材料から脱脂粉乳を抜き、マーガリンを乳成分不使用のものに変更した学校給食用パンの開発
乳成分不使用パンが現行2種類から16種類へ（令和7年度4月から提供）
（このほかに乳成分を含むパンもあり）
- ・学校給食への県産農産物導入の推進（地場産物を活用した製品の開発）

参考メニュー



学校給食用米粉ワンタン



「ラザニア」

- ・関連団体と連携し、児童生徒向けに埼玉県産農産物啓発ポスター「埼玉県産のお米が学校給食のごはんになるまで」を作成



- ・生きる力をはぐくむ食に関する指導モデル校等支援事業（17校（所））

- 学校における食育推進教材活用研修会（栄養教諭、学校栄養職員対象 6月19日）



- 学校給食調理コンクール（栄養教諭、学校栄養職員対象 7月2日、24日）
- 学校給食親子料理教室（8月2日）家庭で役立つ料理教室



- 取扱食材等情報研修会（展示会）（栄養教諭、学校栄養職員対象 8月21日）



- 学校給食調理講習会（栄養教諭、学校栄養職員対象 10月9日）食事内容を魅力的かつ豊かなものとするため



- 学校給食親子体験教室（10月20日）親子によるパン作り体験教室



- 11月彩の国ふるさと学校給食月間に「彩の国学校給食研究大会」を開催(共催)
(11月6日)

- 学校給食教室（保護者対象11月1日）家庭と連携した食育を支援



○令和7年度の取組計画

実施時期	実施内容・対象・回数等	実施会場・場所
6月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・「5か年事業計画」の「学校給食用食材の安全確保」等を目標に、令和7年度も引き続き事業を実施する。 ・関係団体と連携し、県内全児童・生徒を対象に県産農産物の給食への利用状況及び生産状況を紹介するポスターを作成し、地域農業・県産農産物への理解を深め地産地消と食育の促進を図る。 ・生きる力をはぐくむ食に関する指導モデル校等支援事業を行う。(20校(所)) ・学校における食育推進教材活用研修会(栄養教諭、学校栄養職員対象) 	学校給食会
7月2日、24日	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する指導用教材を活用した研修会 ・学校給食調理コンクール(栄養教諭、学校栄養職員、調理従事者対象) 	学校給食会
8月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食親子料理教室 食育を支援するため親子を対象とした家庭で役立つ講習会 	学校給食会
8月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食教室(保護者対象) 学校給食の重要性やあり方及び学校給食用食材について、保護者のより一層の理解を図るため開催 	学校給食会
8月6日、10月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食調理講習会(栄養教諭、学校栄養職員対象) 食事内容を魅力的かつ豊かなものとする 	学校給食会
8月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・取扱食材等情報研修会(栄養教諭、学校栄養職員対象) 	学校給食会
10月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・親子体験教室 学校給食用のパンについて理解を深めるため、親子によるパン作り体験教室を開催 	指定パン工場
11月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・彩の国学校給食研究大会 彩の国ふるさと学校給食月間にあわせ、学校給食調理コンクールの表彰も行う 	さいたま市文化センター

【一般社団法人埼玉県商工会議所連合会】

○ 令和6年度の取組実績

会議所名	名称	取り組み内容	実施時期
さいたま	ついたちまんじゅうの会	ついたちまんじゅうの会会員店舗全店のつ いたちまんじゅう集合販売 ①浦和駅改札出口向かい販売特設ブース ②そごう大宮店、高島屋大宮店	① 7月1日 9月1日 11月1日 ②毎月1日 ※1月を除く
		・各種関係団体によるイベントでのPR活動 ・「埼玉の小麦」をテーマとしたイベントを企画・参加	通年
秩父	小昼飯（こぢゅうはん）プロジェクト	秩父の和点心「小昼飯（こぢゅうはん）プロジェクト」を継続・推進した。	通年
深谷	深谷ねぎカレーやきそば	・専用WEBサイトやパンフレット、会報誌等でのPR ・深谷市産業祭、各種関係団体主催イベント等への出店PR活動	通年 深谷市産業祭（11月9日・10日）
		・市外・県外へのイベントへのPR出店（横須賀カレーフェスティバルなど） ・登録店の認定書プレートの作成し取扱店の知名度向上を図った。	通年 3月

	<p>渋沢栄一翁及び 畠山重忠公関連 事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渋沢栄一翁及び畠山重忠公関連商品を紹介した専用サイトの（深谷めぐり）作成・運営による販売促進 ・ 深谷商工会議所オリジナルの渋沢栄一翁ロゴマークの活用促進（新商品開発支援含む） ・ 新紙幣になった渋沢栄一翁が好んで食べた深谷市郷土料理「煮ほうとう」のPR活動 	<p>通年 通年 通年</p>
	<p>地域資源情報サイト「FUKAYA-BRAND」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源活用商品の開発を支援し、開発後の商品・サービス等を専用サイトに掲載することで販売促進活動を行い、販路拡大に繋げた 	<p>通年</p>
草加	U-TaaaN PROJECT	<p>野生動物（主にシカ）の原皮を受入れ、鞣（なめ）し加工を請け負う事業。原皮の産地の要望に応じ、革素材だけでなく、デザインを一緒に考えながら小物・バッグなどの製品にして地域に還元する。これまで、埼玉県内においては、西秩父のシカの皮を受け入れた実績がある。</p> <p>また、草加市伝統産業展示室において、篠原ともえさんデザイン、そうか革職人会作成の『ザ・レザー・スクラップ・キモノ』を展示している。通常廃棄されてしまう革の切れ端を使った、水墨画のように美しく、繊細かつ斬新なデザインで、世界的な広告賞も受賞している。</p>	<p>通年</p>

草加	草加版コミュニティフリッジ(公共冷蔵庫)事業	<p>フードロス対策と生活困窮家庭支援を結び付け、事業系の食品ロスを積極的に活用するとともに、軽減された事業者側の廃棄コストから運営費を捻出する社会解決型自走式食品支援モデル。今年度は、商工会議所青年部が事業の実施主体となり、青果・生鮮品も含めた地域内の食品流通経路を開拓・定着を図り、食品ロス対策と福祉的な支援を両立されるための幅広い取組み（広義の地産地消モデル。）をさらに前に進めていく。</p>	通年
草加	クールビズシャツ作成事業	<p>草加のゆかた染めは「注染」という伝統技法を使い、県の伝統的手芸工芸品として指定される等、市を代表する特産品と位置づけられている。</p> <p>注染の特徴は、プリント（転写）生地と違い、反物（木綿や絹）に乗せた型紙の上から染料を注ぐ本来の技法のため、柄は裏地も表地と同様にきれいに染まる。</p> <p>洗えば洗うほど肌になじみ、色はあせるどころか、はっきりしてくることが特徴。</p> <p>草加市協力の下、草加商工会議所では、ゆかた染めPRのため、「注染」で染めたゆかた生地を使用したクールビズ用の「ゆかた染シャツ」を製作している。</p>	夏季

春日部	春日部産米を活用した食の新たな地域ブランド創出に向けた実証実験	令和4年度に締結した協定に基づき、適正米の栽培、製粉、製麺、商品開発等の実証実験を継続してきた。(協定締結団体：春日部市、農業委員会、JA、商工会議所、商工会、観光協会、民間事業者2社)今年度は、さらなる米粉の需要拡大と米粉や米粉麺を活用する協力店を増やす取り組みを実施する。また、学校給食への米粉メニューの提供や栽培から生産、加工、販売等の流通過程の構築、ブランド化(ネーミング等)など、実証実験から本格的な取り組みへの移行を目指す。	通年
-----	---------------------------------	--	----

○ 令和7年度の取組計画

会議所名	名称	取り組み内容	実施時期
さいたま	ついたちまんじゅうの会	ついたちまんじゅうの会会員店舗全店のつ いたちまんじゅう集合販売 ② 浦和駅改札出口向かい販売特設ブース ② そごう大宮店	① 7月1日、9月1日、11月1日 ③ 毎月1日 ※1月を除く
		・各種関係団体によるイベントでのPR活動 ・「埼玉の小麦」をテーマとしたイベントを企画・参加	通年
秩父	小昼飯(こぢゅうはん)プロジェクト	秩父の和点心「小昼飯(こぢゅうはん)プロジェクト」を継続・推進する。	通年

深谷	深谷ねぎカレー やきそば	<ul style="list-style-type: none"> ・専用 WEB サイトやパンフレット、会報誌等での P R ・深谷市産業祭、各種関係団体主催イベント等への出店 P R 活動 ・メディアを活用した P R ・市外・県外へのイベントへの P R 出店（輝姫まつりなど） 	<p>通年</p> <p>深谷市産業祭（11月）</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
	渋沢栄一翁及び 畠山重忠公関連 事業	<ul style="list-style-type: none"> ・渋沢栄一翁及び畠山重忠公関連商品を紹介した専用サイトの（深谷めぐり）作成・運営による販売促進 ・深谷商工会議所オリジナルの渋沢栄一翁ロゴマークの活用促進（新商品開発支援含む） ・渋沢栄一翁が好んで食べた深谷市郷土料理「煮ほうとう」の P R 活動 	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
	地域資源情報サ イト「FUKAYA- BRAND」	地域資源活用商品の開発を支援し、開発後の商品・サービス等を専用サイトに掲載することで販売促進活動を行い、販路拡大に繋げる	通年
草加	U-TaaaN PROJECT	<p>野生動物（主にシカ）の原皮を受入れ、鞣（なめ）し加工を請け負う事業。原皮の産地の要望に応じ、革素材だけでなく、デザインを一緒に考えながら小物・バッグなどの製品にして地域に還元する。これまで、埼玉県内においては、西秩父のシカの皮を受け入れた実績がある。</p> <p>また、草加市伝統産業展示室において、篠原ともえさんデザイン、そうか革職人会作成の『ザ・レザー・スクラップ・キモノ』を展示している。通常廃棄されてしまう革の切れ端を使った、水墨画のように美しく、繊細かつ斬新なデザインで、世界的な広告賞も受賞している。</p>	通年

草加	草加版コミュニティフリッジ(公共冷蔵庫)事業	<p>フードロス対策と生活困窮家庭支援を結び付け、事業系の食品ロスを積極的に活用するとともに、軽減された事業者側の廃棄コストから運営費を捻出する社会解決型自走式食品支援モデル。今年度は、商工会議所青年部が事業の実施主体となり、青果・生鮮品も含めた地域内の食品流通経路を開拓・定着を図り、食品ロス対策と福祉的な支援を両立されるための幅広い取組み（広義の地産地消モデル。）をさらに前に進めていく。</p>	通年
草加	クールビズシャツ作成事業	<p>草加のゆかた染めは「注染」という伝統技法を使い、県の伝統的手芸工芸品として指定される等、市を代表する特産品と位置づけられている。</p> <p>注染の特徴は、プリント（転写）生地と違い、反物（木綿や絹）に乗せた型紙の上から染料を注ぐ本来の技法のため、柄は裏地も表地と同様にきれいに染まる。</p> <p>洗えば洗うほど肌になじみ、色はあせるどころか、はっきりしてくることが特徴。</p> <p>草加市協力の下、草加商工会議所では、ゆかた染めPRのため、「注染」で染めたゆかた生地を使用したクールビズ用の「ゆかた染シャツ」を製作している。</p>	夏季

春日部	春日部産米を活用した食の新たな地域ブランド創出に向けた実証実験	令和4年度に締結した協定に基づき、適正米の栽培、製粉、製麺、商品開発等の実証実験を継続してきた。(協定締結団体：春日部市、農業委員会、JA、商工会議所、商工会、観光協会、民間事業者2社) 昨年、ネーミングが「はるこめこ」と決まり、更なる米粉の需要拡大と米粉や米粉麺を活用する協力店を増やす取組を実施する。また、引き続き学校給食への米粉メニューの提供や栽培から生産、加工、販売等の流通過程の構築を目指す。	通年
-----	---------------------------------	---	----

【埼玉県商工会連合会】

○ 令和6年度の取組

- ・ 商工会や商工業者による県内農産物を活用した特産品開発や販路開拓の支援
- ・ 商工祭・産業祭等における地域特産品の販売促進
- ・ 会報「彩の国商工会だより」やHPで地域の取り組みを随時PR
- ・ 池袋サンシャインシティで開催される全国物産展において、特産品開発業者の出展を支援
- ・ 国、県の補助金事業に関する情報提供と申請支援
- ・ ジェトロ埼玉貿易情報センター等関係団体との連携による販路開拓等の支援
- ・ 全国商工会連合会が推奨・提携している各種食品フェアに会員事業者の出展を支援

○ 令和7年度の取組計画

- ・ 商工会や商工業者による県内農産物を活用した特産品開発や販路開拓の支援
- ・ 商工祭・産業祭等における地域特産品の販売促進
- ・ 会報「彩の国商工会だより」やHPで地域の取り組みを随時PR
- ・ 池袋サンシャインシティで開催される全国物産展において、特産品開発業者の出展を支援

- ・ 国、県の補助金事業に関する情報提供と申請支援
- ・ ジェトロ埼玉貿易情報センター等関係団体との連携による販路開拓等の支援
- ・ 全国商工会連合会が推奨・提携している各種食品フェアに会員事業者の出展を支援

【一般社団法人埼玉県食品衛生協会】

○令和6年度の取組

- ・ 食中毒予防の啓発
夏季の食中毒予防月間、冬季のノロウイルス食中毒予防強化期間を中心に、食中毒予防キャンペーンや衛生講習会を開催し、啓発物の配布や手洗いチェッカーによる指導を行った。
- ・ 食品衛生に関する各種講習会の開催
食品衛生責任者資格者養成講習会を浦和と東松山会場において53回開催するとともに、新型コロナウイルス感染症対策としてインターネット利用によるeラーニングを導入し、6,560名の食品衛生責任者を養成した。同実務講習会を県内29回開催するとともに、eラーニングも導入し3,710名に対し食品衛生に関する最新の情報を提供した。
- ・ 食品衛生指導員による施設の巡回指導
食品衛生指導員460名が食品営業施設を巡回し、自主管理の徹底、ノロウイルスの注意喚起、HACCPによる衛生管理等を指導した。
- ・ 自主検査の推進
食品営業者の自主衛生管理を推進するため、腸内細菌検査171,128件、食品の細菌・化学検査15,051件を実施した。

○令和7年度の取組計画

昨年度と同様の事業を行うほか、特に食品営業者のHACCPによる衛生管理を推進していく。